

一般質問 下川のここが聞きたい



奈須 議員

病児・病後児保育事業の検討を

町長 本町にあった仕組みの検討を進めます

高齢者の活躍を促す 学習の機会を

町長 人材不足の中、子育て支援の拡充には高齢者の活躍が不可欠ではないか。その活躍を促すための学習の機会が必要ではないか。

町長 既に介護予防ボランティアが幼児センターや児童室において見守りや相談相手として活動しており、今後さらに活動が増えるよう、学習の機会等を検討する。

質問 名寄市のファミリー・サポート・センター事業について、どのように考えるか。

町長 登録した市民が互助精神に基づき、一時的な預かりや送迎等を実施する仕組み（名寄の社協が市から請負）。大変参考となる事例であることから、今後も連携を図り、情報交換等を進める。

病児保育のあり方

町長 ニーズがありながら導入が進まない病児・病後児保育事業については、地域おこし協力隊などの制度を活用しながら、専門的な知見を有する人材や組織の協力の下で、地域の実情に合った事業のあり方を検討してはどうか。

町長 今後、地域おこし協力隊の活用や専門家の招聘等も視野に入れながら、本町に合った仕組みを検討する。

質問 名寄市に病児保育の専門家がいて、それほど頻度が多くない下川のニーズに派遣という形で応えるような広域連携の考え方は。

町長 検討の余地はある。補完的な連携は子育てだけではなくて、様々なことに広域連携を図ろうという提案もあり、いろいろと研究を進める。

男性の労働時間

質問 子育て支援をするに当たり男性の労働時間を減らす施策は。

町長 下川町の事務事業に対して適正な職員数はそのぐらいなのかというのが一番求められている。一年間の労働時間をできるだけ圧縮し、身体に負担のないように、精神面にも負担のないようにしていくというのが私たちに課せられた役割。

